

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	ビジネスⅡ	
科目基礎情報							
科目番号		0002		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		創造工学科（電気電子系フロンティアコース）		対象学年		5	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		図解でわかる 経営の基本 いちばん最初に読む本, 六角明雄著, アニモ出版					
担当教員		金子 友海					
到達目標							
1. 経営戦略について説明することができる。 2. 技術経営について説明することができる。 3. マーケティングについて説明することができる。 4. 技術者および研究者の倫理について説明することができる。 5. グループワークによるケース分析について説明することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
経営戦略について		経営戦略に関する全般的な基礎事項について、歴史的観点についても説明でき、経営モデルに適応できる。		経営戦略について基本的な説明ができる。		左記項目にすることができない。	
技術経営について		技術経営に関する全般的な基礎事項について、歴史的観点についても説明でき、経営モデルに適応できる。		技術経営について基本的な説明ができる。		左記項目にすることができない。	
マーケティングについて		マーケティングに関する全般的な基礎事項について、歴史的観点についても説明でき、経営モデルに適応できる。		マーケティングについて基本的な説明ができる。		左記項目にすることができない。	
技術者および研究者の倫理について		技術者および研究者の責任ある行動をとるための基本的な事項について、歴史的観点についても説明でき、理解できる。		技術者および研究者の責任ある行動をとるための基本的な事項について理解できる。		左記項目にすることができない。	
グループワークによるケース分析について		グループディスカッションに向けて、様々な媒体により収集した資料を適切に取捨選択でき、得られた成果と問題点を他者に論理的かつ客観的に明瞭に説明する資料を作成できる。		グループディスカッションに向けて、様々な媒体により収集した資料を取捨選択でき、得られた成果と問題点を他者に論理的かつ客観的に説明する資料を作成できる。		左記項目にすることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
Ⅰ 人間性 1 Ⅰ 人間性 Ⅱ 実践性 2 Ⅱ 実践性 Ⅲ 国際性 3 Ⅲ 国際性 CP2 各系の工学的専門基盤知識, および実験・実習および演習・実技を通してその知識を社会実装に応用・実践できる力 5 CP2 各系の工学的専門基盤知識, および実験・実習および演習・実技を通してその知識を社会実装に応用・実践できる力 CP3 課題の本質を理解し, 正しい倫理観の下で, 自分の意見を論理的に表現できる力 6 CP3 課題の本質を理解し, 正しい倫理観の下で, 自分の意見を論理的に表現できる力 CP4 他者を理解・尊重し, 協働できるコミュニケーション能力と人間力 7 CP4 他者を理解・尊重し, 協働できるコミュニケーション能力と人間力 CP5 国際的素養を有し, 継続的に自ら学ぶ力 8 CP5 国際的素養を有し, 継続的に自ら学ぶ力							
教育方法等							
概要		企業は経営資源であるヒト, モノ, カネ, 情報, 技術のベストミックスしながら経営をしていく必要があり, ここでは「経営戦略」(経営の現状分析及び問題解決, 新規事業への展開等の策定など) および技術を中核に置いた経営である「技術経営 (MOT)」の基礎を学ぶ。これらに加えて, 戦略的なマーケティングの基礎理論について理解する。					
授業の進め方・方法		経営をはじめて学ぶ学生のために, 初歩的な教科書を指定した。この教科書と教員自作のアナログビジネスゲーム, レジューメを用いて講義する。 この科目は学修単位科目のため, 事前・事後学習として課題・演習などを実施し, 評価の対象とする。					
注意点		演習課題には積極的に自発的に取り組むこと。 学業成績の成績が60 点未満の者に対して再試験を実施する場合がある。この場合, 再試験の成績をもって再評価を行う。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	0. フロンティアコースで学ぶビジネス Ⅰ～Ⅲの関係と本授業の位置づけ 模擬経営体験 (ルールの理解)		企業等経営に関する授業のビジネスⅠ～Ⅲのなかで, 本授業の位置づけについて理解し, 説明できる。 模擬経営体験により経営センスを身につける。		
		2週	模擬経営体験 (ルールの理解)		模擬経営体験により経営センスを身につける。		
		3週	模擬経営体験 (チーム)		模擬経営体験により経営センスを身につける。		
		4週	模擬経営体験 (チーム)		模擬経営体験により経営センスを身につける。		
		5週	模擬経営体験 (チーム)		模擬経営体験により経営センスを身につける。		
		6週	模擬経営体験 (チーム)		模擬経営体験により経営センスを身につける。		
		7週	経営分析手法		経営分析に必要な「数字」について理解する。		
		8週	ケース分析		他社の経営状況についてヒヤリングを行い, 経営報告書を作成する。		

2ndQ	9週	模擬経営体験（発表）	他社との比較により自社の強みや弱みを理解する。
	10週	模擬経営体験（サプライチェーンコラボレーション）	模擬経営体験によりサプライチェーンコラボレーションについて理解する。
	11週	模擬経営体験（サプライチェーンコラボレーション）	模擬経営体験によりサプライチェーンコラボレーションについて理解する。
	12週	模擬経営体験（サプライチェーンコラボレーション）	模擬経営体験によりサプライチェーンコラボレーションについて理解する。
	13週	模擬経営体験（サプライチェーンコラボレーション）	模擬経営体験によりサプライチェーンコラボレーションについて理解する。
	14週	ケース分析	他社の経営状況についてヒヤリングを行い、経営報告書を作成する。
	15週	模擬経営体験（発表）	他社との比較により自社の強みや弱みを理解する。
	16週	定期試験	
評価割合			
	定期試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	10	10	20
専門的能力	40	40	80